

管内月間火山概況（平成 22 年 4 月）

気象庁地震火山部
火山監視・情報センター

噴火警報及び噴火予報の発表状況（4月30日現在）

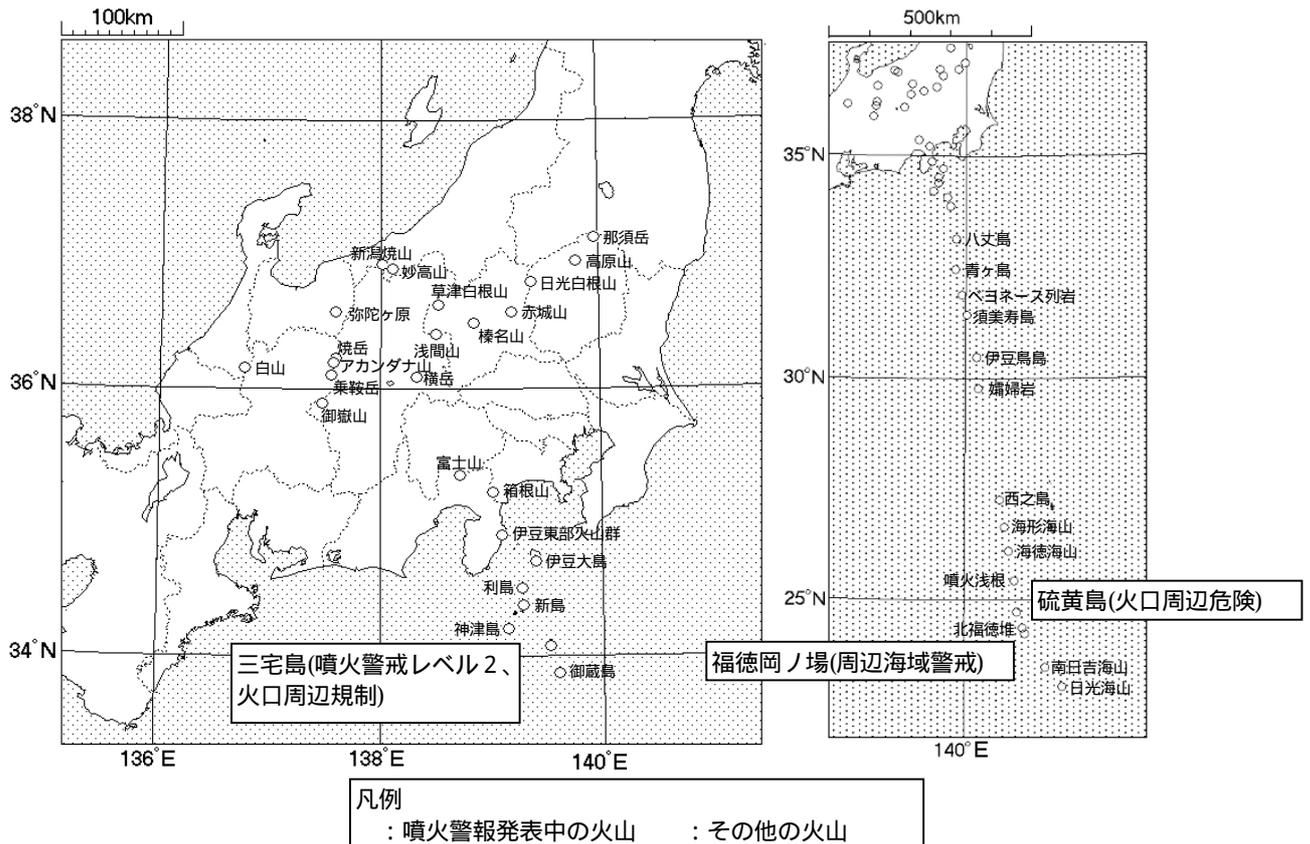
火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）：三宅島

火口周辺警報（火口周辺危険）：硫黄島

噴火警報（周辺海域警戒）：福徳岡ノ場

噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）：那須岳、草津白根山、浅間山、御嶽山、富士山、箱根山、伊豆大島

噴火予報（平常）：高原山、日光白根山、赤城山、榛名山、横岳、新潟焼山、妙高山、弥陀ヶ原、焼岳、アカンダナ山、乗鞍岳、白山、伊豆東部火山群、利島、新島、神津島、御蔵島、八丈島、青ヶ島、ベヨネース列岩、須美寿島、伊豆鳥島、孀婦岩、西之島、海形海山、海徳海山、噴火浅根、北福徳堆、南日吉海山、日光海山



噴火警戒レベルは、地域防災計画等でその活用が定められている火山に導入しています。

この管内月間火山概況は気象庁ホームページ（<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の管内月間火山概況（平成 22 年 5 月分）は平成 22 年 6 月 8 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土交通省利根川水系砂防事務所、国土交通省金沢河川国道事務所、海上保安庁、第三管区海上保安本部、海上自衛隊、環境省インターネット自然研究所、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、東京工業大学、独立行政法人防災科学技術研究所、独立行政法人産業技術総合研究所、東京都、長野県、岐阜県、新潟県及び神奈川県温泉地学研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号：平 20 業使、第 385 号）。

各火山の活動状況及び予報警報事項

主な火山の活動及び予報警報事項の状況は以下のとおりで、4月15日11時00分に、浅間山の噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から1（平常）へ引き下げました。なお、その他の主な火山の予報警報事項に変更はありません。

那須岳〔噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）〕

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

草津白根山〔噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）〕

振幅の小さな火山性地震の一時的な増加が繰り返し発生しました。地殻変動には特段の変化はみられませんが、湯釜火口内の北壁などでは引き続き熱活動の高まりがみられています。

山頂火口から概ね500mの範囲では、ごく小規模な火山灰等の噴出に警戒が必要です。また、ところどころで火山ガスの噴出が見られます。周辺の窪地や谷地形などでは高濃度の火山ガスが滞留する事がありますので、注意が必要です。

浅間山〔噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）〕

浅間山では、2009年5月27日以降噴火は発生していません。火山性地震はやや多い状態が続いていますが、2009年2月2日の噴火前にみられた周期の短い地震の増加は認められません。山頂火口からの火山ガス（二酸化硫黄）の放出量も最近では減少しています。山体周辺のGPS連続観測では、深部へのマグマの注入を示す伸びの傾向が鈍化し、最近はずかに縮みの傾向がみられます。

これらのことから、浅間山では山頂火口から500mを超える範囲に影響を及ぼす噴火の兆候は認められなくなったと判断し、4月15日11時00分に噴火予報（警報解除）を発表し、噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から1（平常）に引き下げました。

ただし、山頂火口から概ね500m以内に影響する程度の噴出現象は突発的に発生する可能性がありますので、火山灰噴出や火山ガス等に警戒が必要です。

新潟焼山〔噴火予報（平常）〕

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

御嶽山〔噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）〕

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

白山〔噴火予報（平常）〕

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

富士山〔噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）〕

国土地理院の観測によると、山体周辺のGPSによる地殻変動観測で、2008年8月頃から地下深部の膨張を示すと考えられるわずかな伸びの変化が認められます。

その他の観測データで浅部の異常を示す変化はなく、噴火の兆候は認められません。

箱根山〔噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）〕

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

伊豆東部火山群〔噴火予報（平常）〕

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

伊豆大島〔噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）〕

地下深部へのマグマ注入によると考えられる島全体の長期的な膨張傾向が続いています。短期的には2009年秋頃から収縮傾向がみられます。

今後の火山活動に注意する必要がありますが、現在は静穏な状況で、三原山山頂火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

三宅島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）]

多量の火山ガス放出及び火山性地震のやや多い状態が続いています。

火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されますので、山頂火口周辺（雄山環状線内側）では噴火に対する警戒が必要です。また、火山ガス予報で火山ガスの濃度が高くなる可能性があるとして予想される地域では火山ガスに対する警戒が必要です。降雨時には土石流にも注意が必要です。

八丈島 [噴火予報（平常）]

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

硫黄島 [火口周辺警報（火口周辺危険）]

独立行政法人防災科学技術研究所の観測によると、地震活動は落ち着いた状態で経過しています。国土地理院の観測によると、2006 年 8 月以降みられている島全体の隆起を示す地殻変動は、現在は停滞しています。島内南北方向の伸びの傾向が継続していましたが、最近はやや鈍化しています。

硫黄島では引き続き火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されますので、従来から小規模な噴火がみられていた領域では噴火に対する警戒が必要です。

福徳岡ノ場 [噴火警報（周辺海域警戒）]

海上保安庁海洋情報部、第三管区海上保安本部及び海上自衛隊による上空からの観測では、これまでも福徳岡ノ場付近の海面に、長期にわたり火山活動によるとみられる変色水等が確認されています。

福徳岡ノ場では小規模な海底噴火が発生すると予想されますので、周辺海域では警戒が必要です。

上記以外の火山の活動状況に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められず、予報警報事項に変更はありません。